

(別紙①)

2024年度 安全重点施策

会社名

富士急静岡バス株式会社

| 安全方針 | | 安全重点施策 | |
|------|-------------|---------------------------------------|---|
| | | 安全目標 | 取組計画 |
| 1 | 安全は全てに優先する | 重大事故「0」 | 経営幹部による「早朝点呼」での注意喚起および指導の実施（毎月1日） |
| | | 有責事故「0」（前年度7件） | 「バスドライバー安全運転の心得」の浸透定着を図るための認識度テストの実施（月1回：毎月20日） |
| | | 車内事故「0」 | 「交通安全運動」・「輸送安全総点検」等の安全運動の実施（期間中、運転リボン着装・乗合バス方向幕での運動掲出、車内事故防止の為の肉声案内の実施） |
| | | 健康起因事故「0」 | ドライブレコーダー映像の活用による運転指導の実施（過去事故事例をもとに事故傾向の強い乗務員を選定）（年10回） |
| 2 | 法令及び諸規則の順守 | 全職員への安全意識の浸透定着の向上 | 「安全会議」実施による安全・危険情報共有による事故防止の意識向上（月/1回） |
| | | 乗務員の確保・維持による労務管理の平準化 | 短時間仕業の設定（仕業ラインナップの拡大（AIオンデマンドシステム導入）による適正要因の確保及び勤怠の適正化） |
| | | | 勤務シフト編成システムのデジタル化「翌日勤務のメール配信化」 |
| 3 | 常に安全の維持・向上 | 乗務員の健康管理の徹底による輸送力の確保・維持 | 健康スクリーニング検査のガイドライン・マニュアルの作成および実施、管理（定期健康診断・特定業務従事者健診／脳ドック／SAS検査 等） |
| | | ヒヤリハット・危険箇所等（危険バス停等）の情報収集の体制構築および事例改善 | 「ヒヤリハット・危険箇所情報」の報告方法の簡素化（目標：年24件収集）／定期的な情報共有実施（週1回）／表彰制度の活用（年2回） |
| | | 事業エリアに則した運転技術教育訓練の実施・管理による安全運転の維持・向上 | 事業エリアに必要な運転技術訓練として「夏山走行訓練」／「冬期雪山走行訓練」／「高速道走行訓練」の実施 |
| | | 各種安全訓練の実施による危機管理意識の体制の強化 | 外部機関（自治体・警察・消防等）と連携し「バスジャック訓練」もしくは「救急救命講習」を実施 |
| | | 継続的、計画的な乗務員教育の実施（車両知識の教養など） | 外部機関（自治体・警察・消防等）と連携し「自然災害想定訓練」を実施 |
| 4 | 自ら考える組織 | 設備更新による安全性の向上 | 「グッドラーニング」による計画的な安全教育の実施／整備士による運転士向け技術教育の実施／適齢診断の実施頻度の強化 |
| | | 模範従業員の表彰制度の積極的な活用による安全意識・モチベーションの向上 | 車両更新およびその他設備の更新（血圧・体温測定一体化のアルコール検知器の導入（4月）等） |
| 5 | 顧客を意識した事業活動 | 外部セミナー（NASVセミナー等）等への積極的な受講による安全意識の向上 | ヒヤリハット件数・車内美化の貢献による「模範乗務員表彰」の実施（賞与月：7月・12月） |
| | | 乗務員・出札窓口への苦情削減（前年度8件） | CS関連の研修等（オンライン講習等）への積極的な受講（年1回以上） |
| | | 5S活動の推進によるクレンネス・クレンリネスの向上 | バス停留所の整備（富士宮出札の改装（4月）等） |
| | | 利用客への安全啓発活動の実施 | 外部機関（自治体・警察・消防等）と連携し、地域イベント等における乗り方教室（安全教室含む）の実施（年3回） |
| | | 多言語対応の強化 | 車内事故防止喚起のリーフレット掲示による注意喚起の実施（都度）／（自治体・当該施設と連携）高齢者・障害をお持ちのお客様対応研修（12月） |
| | | | 外国語（英語）対応のバス周遊ガイドの作成による外国人観光客対応の強化（4月） |